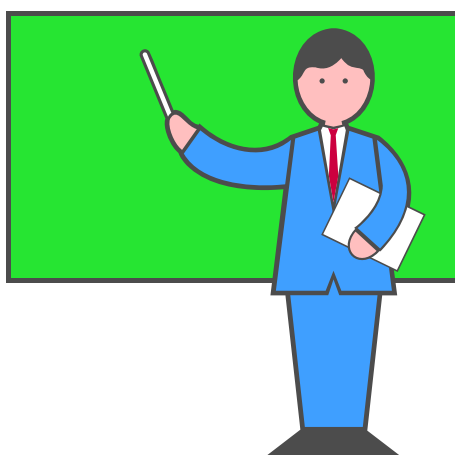


# ティーチング・ポートフォリオ

福石 賢一

九州女子大学人間科学部  
人間発達学科人間基礎学専攻



作成日：2012年9月5日

## 目 次

1. 教育の責任	1
2. 教育の理念	2
3. 教育方法	3
4. 授業評価	5
5. 教育改善活動への参加状況	6
6. 今後の目標	7
7. エビデンス一覧	8

## 1. 教育の責任

私は本学において主に、教員免許状取得に必要な科目のうちの「教職に関する専門科目」群を担当している。これらの科目は教員免許状取得のために必要な教免必修科目で、法令により教員免許状の取得を目指す者が共通に学んでおくべきものとして定められているものである。本学ではすべての学科に教職課程が置かれているため、私が担当する授業科目の受講者は本学全学科にわたっている。

また、学科専門科目として「卒業研究演習Ⅰ～Ⅳ」（卒業論文指導）も担当している。

九州女子大学における私の担当科目（いずれもこれまで継続的に開講してきているもの）は以下の通りである。

科目名	受講者数	学年	種別	特徴
<b>【説明】</b>				
教育原論	120名程度	1年生	選択（教免必修）	専門、講義
<b>【説明】</b> 教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論」に関する科目で教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を取り扱うこととされている。栄養教諭、および中高の家庭、国語、書道、情報の教員免許取得希望者対象。				
教育課程論	50名程度	2年生	選択（教免必修）	専門、講義
<b>【説明】</b> 教育職員免許法施行規則に定められた「教育課程及び指導法に関する科目」で、教育課程の意義及び編成の方法を取り扱うこととされている。中高の国語、書道、情報の教員免許取得希望者に、指導要領の歴史、現行指導要領の特徴と内容、カリキュラムの理論等を講義している。				
教育行政学	50名程度	3年生	選択（教免必修）	専門、講義
<b>【説明】</b> 教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」で、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を取り扱うこととされている。中高の家庭、国語、書道、情報の教員免許取得希望者に、日本の教育法規と教育行政制度を中心に講義をしている。				
教育制度論	140名程度	3年生	選択（教免必修）	専門、講義
<b>【説明】</b> 教育職員免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」で、教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を取り扱うこととされている。小学校及び幼稚園の教員免許取得希望者に、日本の教育法規と教育行政制度、公教育の歴史等について講義をしている。				

事前事後指導	80名程度	4年生	選択（教免必修）	専門，講義，オムニバス
【説明】 教育職員免許法施行規則に定められた科目。受講者は栄養教諭、および中高の家庭科、国語、書道、情報の教員免許取得希望者。教科担当者と教職担当者のオムニバス講義。				
卒業研究演習 I ～IV	各5名程度	3、4年	必修	専門，演習，少人数
【説明】 卒業論文作成を支援するための科目。学生の興味関心に基づきながら、3年次は主に各自で関連文献を読ませて発表、4年次は論文構成の検討、卒業論文の執筆を行っている。				

この他に人間文化学科においては「基礎総合演習」（1年生演習科目）、「文化基礎演習」（2年生演習科目）、「異文化間交渉史」、「国際理解教育」（いずれも改組のため平成24年度までに終了）も担当した。

## 2. 教育の理念

私は、自分自身の教育活動において、以下の3点を重視している。

### ①学生が学問的な手順を踏んで物事を考えられるようにすること

大学で学ぶことの意義の一つは、学問的な手順を踏んで物事を考えられるようになることだと考えている。人は生きていく中でさまざまな課題や困難に直面するが、そうした時に考え方がわからなければ途方に暮れるほかない。大学にはさまざまな専攻があるが、先行研究を参照し、情報を整理し、集めた資料や証拠に基づいて批判的に思考し、他人と意見を交わしながら自分の意見を検証し鍛える、といった基本的な手続きは共通しているのではないだろうか。どのような専攻で学んだ場合でも、そのような手続きに慣れ親しむことは、人生で直面する課題や困難を解決するための力になると信じている。

さらに、将来教職に就きたいと考えている学生には、二つの意味でそのような手続きに従って思考する習慣を身に付けてほしいと考えている。一つは、教師には自らの教育活動を振り返りながら改善を指向する反省的実践家であることが求められるようになってきている。学問的手順はそのための大きな力になると思われる。いま一つは教師の責任に関わる問題である。子どもたちの人生を良い方向にも悪い方向にも導きうる重い責任を負った立場にある教師が、自分が行っている行為（教育）の意味について無自覚であることは許されないであろう。これら二つの意味で、将来教師になりたいと考えている学生には特に学問的手順を踏んで物事を考えられるようになってほしいと考えている。

## ②将来就こうとする職業に求められる基本的な知識や技能を修得させること

医者や教師が人格に優れていることは望ましいことである。しかしながら、人格に優れていることのみによって医者や教師になれるわけではない。医者や教師といった専門職にはその職業に求められる一定の知識や技能があり、特に免許が必要とされる専門職においては、そうした知識や技能を有することが免許によって証明されて初めてその職に従事することが許される。それゆえ、主に教職課程の教育に携わる私は、学生に教師という職業が求める基本的な知識や技能を身に付けさせるということを重視する。

## ③適切な受講態度を身に付けさせること

他人に迷惑をかける私語について指導することに異議を唱える人は少ないと思うが、仮に教育を金銭とサービスの交換という単なる契約関係だと考えるならば、他人に迷惑をかけない遅刻や居眠りは放っておけばよいという考え方も成り立つだろう。しかし私は、遅刻や居眠りしている学生にも積極的に指導し、彼らを鼓舞して学ばせるところまでが教師（教育）の責任だと考えている。さらに、例え、話者の話に興味を持ってなくても、話をしている人の前で私語や居眠りをするのは社会常識として失礼なことである。とりわけ教師を目指す学生は、自分自身が将来児童・生徒に対してそのような指導を行う立場になることを目指しているのであり、自ら範を示すべきである。このようなモラル教育の観点、並びに、特に教職科目においてはそれが教師養成と関わっているという観点から、学生に対して適切な受講態度を身に付けさせるよう指導を行う。

## 3. 教育の方法

2. 教育理念における①～③を達成するため、次のような手段を用いている。

### ①学生が学問的な手順を踏んで物事を考えられるようにすること

- ・「卒業研究演習Ⅰ～Ⅳ」の指導においては、文献検索、論文概要の発表、議論、卒業論文の構成の仕方や注の付け方といった「学問の作法」の修得を徹底し、学問的な手順を踏んで物事を考えられるようにすることに最も重きを置いている。
- ・講義形式の授業においては、学問的な手順を踏むというところまではなかなか行き着かないが、議論になりうるような問いを投げかけて学生たちが考える機会をつくるように努めている。
- ・テレビで放映されている教材となりうるような番組を10年以上録りためている。（エビデンス③）これらを、学生に講義内容に対して関心を持たせたり、彼女たちの理解を助けたり、また議論のための問いの投げかけに用いたりしている。例えば、タレントと専門家、国会議員等を「議員」に見立てて疑似国会で議論するという構成の「爆笑問題のもしも私が総理大臣だったら」という番組では「義務教育を廃止する」という「法案」をめぐる議論する回（当該箇所30分程度）が放映されたこと

があった。授業においては、この番組を録画したものを視聴した後、「議員」たちの論点を整理させ、義務教育の問題点は何か、義務教育を廃止するとどういふ問題がおこるか、なぜ義務教育が存在するのか、といった問いについて考え議論させ、その後義務教育の歴史や制度などの説明を行っている。

## ②将来就こうとする職業に求められる基本的な知識や技能を修得させること

- ・採用試験の過去問等に準じた問題形式の宿題（各回の授業内容に関わるもの）を課している。さらに宿題をやってくるための刺激となるよう、次回に学生を一人ずつ指名しながら解答をおこなっている。（エビデンス②）
- ・宿題の内容及び形式に準じた期末試験を実施している。（エビデンス⑤）
- ・出席を厳しくしている。過去のデータでは出席率と成績には強い相関関係がみられた。（エビデンス⑥）欠席を評価に反映させることで出席に対する刺激を与え、結果的に学生が期末試験ひいては将来の教員採用試験で良い点を取ることを期待している。
- ・授業においてはパワーポイントではなく、基本的には印刷したレジユメを使用している。（エビデンス①）記憶すべき事項が多い授業の場合、パワーポイントではスライドをめくるスピードなど進度調整が難しく感じている。最終的にスライド一覧を配布するのであれば、最初からレジユメを配布したほうがよいと感じ、現在はパワーポイントはほとんど使用しないというスタイルに落ち着いている。
- ・かつてフリーソフト「5 TAKU」を利用した教育史の採用試験対策用自習教材を作成・配布していた。（エビデンス④）ゲームは学生にとって取っ付きやすく、「基礎的・基本的な事項の記憶」という点では大変有効であった。ただ残念ながら、年を経るにしたがって「私のパソコンでは動きませんでした」と言ってくる学生が増えてきたり、学生の間で USB メモリを経由したウィルス感染が問題になったりして、ゲームの使用に消極的になってしまい、現在このソフトはお蔵入りした状態にある。

## ③適切な受講態度を身に付けさせること

- ・他人の迷惑となる私語については毅然とした態度で注意している。遅刻は評価に反映している。但し、居眠りについては十分な指導ができていない。

## ④その他

- ・事後指導においては、まず学生に「実習で学んだこと」をレポートとして事前に作成させておく。そして授業の際にそのレポートに基づいたインタビュー形式の情報・意見交換を近隣の学生同士でさせたあと、代表として数名の学生を指名して発表させている。学生の個人的体験・経験を他人と共有することで相対化・一般化させたいと考えている。但し、人数が 100 名近く、また時間も限られているため、このような方法を取っている。

## 4. 授業評価

下の表は平成 23 年度における授業アンケートの結果の抜粋である（エビデンス⑦）。各項目の数値は 4 件法における肯定回答「かなり満足」「わりに満足」等の割合を示している。最後の「私語」に関する項目の数値は他の学生の私語について改善を望むと回答した者の割合を示している。この年度の「教育課程論」と「教育行政学」については授業に対する学生の不満は少なかったように見える。「教育原論」については、他の 2 科目に比べると不満の割合が高くなっている。その理由としては 1 年次の科目であること、受講者数が他に比べて多いこと、ビデオ視聴機器の調子が悪くその印象が残っているのではないかと考えられることなどの理由が考えられる。

	あなたは この授業 の内容を どの程度 理解でき ましたか。	あなたに とって先 生の説明 の仕方は わかりや すかった ですか。	あなたに とってこ の授業の 内容は有 益でした か。	総合的に 見て、あな たはこの 授業に満 足してい ますか。	あなたは この授業 に熱心に 取り組み ましたか。	次の点で 改善して ほしいこ とがあり ますか:他 の学生の 私語
教育原論	78%	76%	78%	79%	81%	5%
教育課程 論	96%	94%	98%	100%	92%	0%
教育行政 学	94%	91%	91%	94%	94%	0%

自由記述については以下のようなコメントがあった。

### ①宿題プリントについて

- ・「宿題プリント役に立っています。各県の採用試験の過去問なので、傾向をつかむことができ、採用試験の勉強にも役立つ感じで物凄くいいです。」（教育課程論）」

### ②ビデオ視聴について

- ・「ビデオを見たりして、分かりやすかった。」（教育原論）
- ・「教育に関するビデオを多く見て、今の日本の教育についてよく考えることができました。」（教育原論）

その一方で、

- ・「何のためにビデオを見たのか、わからないときがあった。そこまでして←（ビデオの調子が悪いのに）見なくてはいけないのか疑問に思った。」（教育原論）

という意見もあった。この意見については、先に述べたように機器の不調による視聴時のストレスの影響が大きかったのではないかと感じている。

### ③教え方について

- ・「凄く分かりやすく教えていたのでよかったです。以前、別の先生でこの授業を受けたのですが、今になって理解することが出来ました。」（教育原論）

### ④教育改善の姿勢について

- ・「中間アンケートで、先生のこととか、教室のこととか書かれてあって、それを改善しようとする先生の姿勢が良いなと思った。授業も、分かりやすいです！」（教育課程論）

## 5. 教育改善活動への参加状況

### FD推進委員(議長)としての活動

- ①全学で使用する授業アンケート項目の見直し
- ②全教員に授業中間アンケートを義務化
- ③年1回の授業相互参観の全学的導入
- ④学内FD研修会企画（昨年度は舞台演出家の先生による話し方講座開催）
- ⑤FD、SDセミナー等への参加
  - 1.京都FDフォーラム（2011）参加  
授業アンケート部会に参加し、アンケート項目の見直しやアンケート結果の分析方法について示唆を得た。
  - 2.大学教育学会参加(2011)参加  
授業コンサルテーション部会に参加し、情報を得た。
  - 3.高等教育学会参加（2011）参加  
IRの一環としての学生調査について情報を得た。
  - 4.京都FDフォーラム（2011）参加  
ティーチング・ポートフォリオ部会に参加し、情報を得た。

### 教職課程委員長としての活動

- ①九州地区教職課程連絡協議会参加（年2回）
- ②全国私立大学教職課程連絡協議会参加（2012）
- ③北九州地区大学教育実習連絡協議会参加（年1回）



## 6. 今後の目標

### 短期的な目標

#### ◆授業について

- ①論述問題を過去期末試験に出していたが、再度復活させることも検討したい。
- ②暗記用ゲーム教材の復活を試みたい。
- ③議論の時間が確保しにくい授業についてはミニット・ペーパーの使用等も考えたい。
- ④遅刻や居眠り等についても放っておかず指導していきたい。

#### ◆FD 推進委員会議長として

- ①ティーチング・ポートフォリオの組織的導入について検討したい。

#### ◆教職課程委員長として

- ①今回のワークショップの成果を活かし、教職課程全体の責任、理念、方法について考えたい。

### 長期的な目標

#### ◆授業について

- ①注意しなくとも私語、遅刻、居眠りが無いような魅力ある授業づくりに取り組みたい。

#### ◆FD 推進委員会関係

- ①授業改善のための手段に関するさまざまな情報を収集し、導入について検討・提言していきたい。

#### ◆教務関係

- ①大学全体のカリキュラムの構造、AP/CP/DP の関係性等の点検・改善を行いたい。

#### ◆教職課程担当教員として

- ①教職課程のカリキュラム全体の改革を行いたい。

## 7. エビデンス一覧

- ①授業レジュメ
- ②授業宿題プリント
- ③授業用録画教材一覧（2012年9月時点で400タイトル以上）
- ④「5 TAKU」用問題ファイル
- ⑤期末試験問題
- ⑥学生の出席状況と試験成績（過去分あり）
- ⑦科目別授業アンケート集計結果（過去分あり）
- ⑧全学授業アンケート集計結果（全体、開講学科別、受講人数別、学年別の肯定割合及び評価平均）（過去分あり）